

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年7月13日(木) NO10 文責 ^{きした}木下 ^{ふみあき}文秋

時代の変化

「時代の変化」について考えてみたいと思います。昭和から平成そして令和という時代が流れ、この間随分と世の中が変わりました。私が教員となった昭和62年は男子生徒はみんな丸坊主でしたし、今ではあり得ないこともたくさんあったと思います。昭和天皇が崩御され、すぐ平成となりこの時代はとにかく地震や自然災害が多くあったり、対教師暴力や校内暴力で騒がれたりした時代でした。そして、令和となり5年目。学校にエアコンが整備されトイレは洋式化が進み、生徒にタブレットが持たされています。世の中は、スマホがあふれ便利な時代となり昔では絶対に想像できないことが現実となっています。この変化に私たち教師を含めた大人がどう対応するのかとても大事なことです。最近おかげ祭りがありました。六月灯も続きます。以前は、夜に大人と教師がチームを作り夜間パトロールをしていましたが、今年は見送る学校が多いようです。事前指導はするけれども、自分の家庭を空けてまで、校外補導をする時代ではないという考えが普通になってきました。この発想も昔にはありませんでした。それから全国的には校則について大きな変化が予想されます。これまで学校は平等性を尊重して、一定のきまりの中で生徒を管理し規律を維持してきました。しかし、これまでの当たり前が人権的配慮に欠けるという指摘により、見直されたり廃止になったりする傾向が見え始めています。私たち教師の中に、校則を見直したり改めたりすることに反対する人はまずいないと思います。なぜなら、管理することがどんなに大変なことか分かっているからです。全てを自己責任として自由に学校生活を送る時代が来たらそれはそれで受け入れると思います。ただし、それを実現するには社会の仕組みを変えたり、世の中そのものの常識を見直したりしなければいけないと思います。不易と流行という言葉があります。いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないものがある代わりに、世の中の変化とともに変わっていくものもあるという意味です。校則をはじめとするこれまでの当たり前を改善しても、平等に秩序ある生活が維持できるならばまったく問題ありません。時代の変化とともに代わっていくことは否定しませんが、その代償として、規律や道徳性、協調性というものが失われてはならないと思いつつ、時代の変化に対応していきたいと思っています。